

弘前学院大学ティーチング・ポートフォリオ

文学部・英語・英米文学科
フォーサイス・エドワード

作成日 2024年1月9日

1. 教育の責務

2010年から弘前学院大学に勤務し、英会話科目から欧米文学・文化関係科目へと指導の幅を広げてきました。私は国際交流委員会の中心メンバーとして、本学の留学・海外研修プログラムと日本語の語学研究生プログラムを管理しました。またはインターネット委員会への参加を通じて大学のICT統合の向上に努めてきました。教職資格関係科目担当者として、教職・資格プログラム委員会のメンバーを務めて本学の教員免許プログラムをより実践的なものにするために取り組んできました。2020年より英語・英米文学科長に就任し、新戦略委員会への参加を通じて本学の充実に努めました。

私が教えている英語コミュニケーション科目では、ペアワークやグループワークの状況で行われる実践的な言語練習活動を通じて、生徒が英語コミュニケーションスキルを伸ばすのを助けるアクティブラーニング教授法を使用しています。また、学生の英語能力についてフィードバックを提供し、言語スキルを継続的に伸ばしていけるように努めています。専攻関係科目では、学生に欧米文化に触れさせ、欧米文化と日本文化の文化的類似点と相違点を理解させることに主に焦点を当てています。

2023年度担当授業

科目名	学年	授業種別	開講学期	概要
海外研修IA(事前準備)	1～4年	講義	前期	海外研修の前に準備するため
Interpretation/ Translation	2年	講義	後期	基礎的な通訳・翻訳方法
Business English	4年	講義	後期	ビジネス英語コミュニケーション
教科教育法(英語)I-1	2年	講義	前期	英語教育、第二言語習得
教科教育法(英語)I-2	2年	講義	後期	英語教育、第二言語習得
Oral Communication IIIA	3年	講義	前期	英語コミュニケーション
Oral Communication IIIB	3年	講義	後期	英語コミュニケーション
Cultural Studies C	2～4年	講義	前期	異文化理解、比較文化
Advanced Discourse A	4年	講義	前期	英語コミュニケーション
Advanced Discourse B	4年	講義	後期	英語コミュニケーション
欧米文学・文化演習IC	3～4年	演習	前期	異文化理解、比較文化
欧米文学・文化演習ID	3～4年	演習	前期	異文化理解、比較文化
欧米文学・文化演習IIC	4年	演習	前期	異文化理解、比較文化
欧米文学・文化演習IID	4年	演習	前期	異文化理解、比較文化
卒業論文	4年	演習	通年	卒業論文指導

2. 教育の理念

私の教育理念は「アクティブラーニング」が一番大事です。学生が学習した言語や情報を積極的に使用して、現実的な状況でコミュニケーションを練習できるような状況を作ります。また、授業で難しい課題を提供することで、学生は批判的思考スキルを使って、自分たちの世代が将来対処しなければならない現在の地域的および地球規模の問題を検討するようになります。授業評価は、フィードバックを提供するためのツールであるだけでなく、学生に成績を割り当てる手段でもあります。私の教育目標は、学生が恥ずかしさを恐れることなく、自由かつ安全に英語を練習し、間違いを犯すことができる学習環境を提供することです。

さらに、上級生と一緒に、彼らが自分の興味や能力に合った将来のキャリアパスを見つけられるよう支援するよう努めています。学生に正直なフィードバックとサポートを与えることは、将来の成功のための強力な教育基盤となります。

3. 教育の方法

私の授業は、学生が英語とコミュニケーション力を練習しながら自立した学習者になるよう教えるため、非常にアクティブでタスクベースです。私の授業では、ペアワークやグループワークは、コミュニケーションスキルを学び、練習し、学生を将来のキャリアに備えるために不可欠なツールです。

講義科目・演習ゼミなどの授業では、私がアメリカ文化に関する情報を紹介し、学生は同じトピックに関する他の文化の情報を調べて、その研究結果をクラスで発表する必要があります。学生は、将来役立つ研究スキルや知識獲得スキル、プレゼンテーションスキルを学びます。

コンピューター、タブレット、スマートフォンなどのテクノロジーは、情報を検索して共有したり、分析レポートを作成したり、情報を発表したりするために、私の授業で常に使用されている教育ツールです。学生はテクノロジーを使用して、特定のトピックの学習を個別化するだけでなく、将来のキャリアに役立つ情報テクノロジー（IT）スキルを学びます。

4. 教育の成果

私の授業評価アンケートによれば、私の授業はほとんど充実的となっている。アンケート結果は4.0の内、平均値が3.0後半と多めになっています。1つ低い点数はシラバス内容と説明についてあります。これからシラバスをより分かりやすく書いて、オリエンテーションで詳しく説明して、学期中に時々使えばこの評価点数が上がると願っています。1つ気付いた点は私のシラバスが英語で書いているから学生に分かりにくいところがあると考えます。もっと分かりやすい英語で書けば学生が理解しやすくなると思います。

授業の内容について、たまに授業評価アンケートの「この授業の内容について、十分に理解することができている」質問に3.5以下の評価をなりますから、これからもっと分かりやすくシラバスに書きたいと思います。後授業でノートテイキングやりやすくなるようにノーツのプリントを準備したいと思います。また授業の終わりにレッスン内容のまとめアクティビティをやれば学生がもっと授業の内容を理解することができると思います。

5. 教育の改善

授業評価アンケートによれば、シラバス内容を分かりやすく書いて、もっと詳しく説明したいと思います。

全授業にアクティブラーニング教育法を導入したいと思います。特に教科教育法(英語)と欧米文学・文化演習の科目に内容説明の授業に講義中にもっとペアワーク・グループワークをやりたいと思います。

学生の英語コミュニケーション力を育つためにもっとコミュニケーションの機会を増やしたいと思います。

後、学生と一緒に大学の地機連携をより良くするように地域のイベントに参加したいと思います。例えば、弘前市のカルチャーロードで欧米文学・文化演習関係なテーマについてブースを出すとか。

6. 教育の目標

2024年に授業と研究にAIの使い方について学びたいと思います。分かりましたら、学生と他の教員に充實的にAIツールをより良くと安全に使用するように伝いたいと思います。

後、学生の英語コミュニケーション力を育つためにもっとコミュニケーションの機会を増やしたいと思います。授業で話す・ディスカッションするチャンスを増やして学生の英語スキルを高めるように進めたいと思います。

【資料】

1. シラバス
2. 授業評価アンケート結果
3. 授業の改善書